

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370901001		
法人名	医療法人一秀会		
事業所名	グループホーム つどい たんぽぽ棟		
所在地	〒021-0002 一関市中里字石川瀬13-1		
自己評価作成日	令和7年2月20日	評価結果市町村受理日	令和7年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが安心して生活できるよう接し方や関わり方を意識した対応を心がけている。また、日々の生活の中で役割や楽しみを持ち、生き活きたした生活が送れるように、四季折々の行事やレクリエーション活動を職員も共に楽しみながら実践している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は2棟からなり、周辺には大型ショッピングモールや体育館、公園などがあって、市内には系列の複数の介護事業所がある。開設以来、地域の方々から日常的に声をかけていただき、水害発生時には地域の方々の協力を得て避難できる環境にある。氏神神社の神事、祈願祭などの行事、自治会の清掃活動等には職員が積極的に参加している。理念は毎月の職員会議において確認、共有に取り組んでおり、毎月利用者一人ひとりについて丁寧なモニタリングを行い、本人、家族の意向を基本として職員からの意見、提案を集約し、理念が介護計画に反映されるよう意識して取り組んでいる。利用者一人ひとりの医療ニーズに対して、かかり付け医療機関への通院、訪問診療、法人内看護師の定期的な訪問などにより医療との緊密な連携が図られている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年3月7日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

「評価機関：特定非常利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会」

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい たんぽぽ棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所とリビングに提示し、職員全員で意識するよう心がけサービスを提供している。	毎月の会議で理念を復唱・共有し、理念が利用者一人ひとりの介護計画にも反映されるよう意識して取り組んでいる。理念の下に各ユニットでは、前年度の取り組みを振り返って毎年度の目標を設定し、四季折々の行事開催や作品の製作などに意欲的に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の除草作業や2か月に一度、区長、町長、民生委員さんのご自宅を訪問している。	地域の清掃や草刈り、五穀豊穡祈願など地域行事に職員が参加交流し、また、近隣の小学校の文化祭に出品した利用者の作品と会場の様子を写真撮影し皆で鑑賞している。隣接のデイサービスの行事にも参加し、保育園児や地域の方とも交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状、新型コロナウイルス対策により、特別おこなえていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況と活動内容を報告している。訪問の際に、アドバイスやを頂き会議録にまとめている。	コロナ禍の影響もあって書面開催としているが、会議資料を持参した都度、ホームの状況等の説明を行い、意見を伺うようにしている。その際、地区での行事や工事による交通規制など、地区での身近な情報をいただいている。	運営推進会議委員として、専門的な立場での助言が受けられるよう、消防署（団）、警察署からの参加についても検討されることを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状、新型コロナウイルス対策により、運営推進会議を開催できていないが、市役所に会議資料を届けた際に、現状の報告を行い。アドバイスを頂いている。	国県等の行政情報はメール等で伝達されるなど、日常的に連携している。利用者の入退居の報告、事故報告、事業申請、制度改正による人員配置の相談は、市の担当窓口に出向いて行っている。生活保護受給者については、定期的に文書による状況確認が行われている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい たんぽぽ棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の発生ない。	法人として指針を策定している。委員会活動は事業所ごとに実施し、毎月、事故報告と併せて身体拘束の有無を確認し、3ヵ月毎に研修を実施している。特に認知症を前提とした言葉掛けから来るスピーチロックについては、適当な言い換えや表現等について質問形式での研修を取り入れている。即座に対応できるよう、転倒防止を目的とするセンサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会を定期的 to開催して身体拘束の発生がないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会を定期的 to開催して身体拘束の発生がないよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を心掛けている。疑問点がないか確認を行いご理解と納得をして頂いたうえで契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。現在、とくにご意見はなく反映に至っていない。	面会は玄関で窓越しで行っており、日用品の入れ替え時や定期的な通院付き添いなどの機会を通して、要望等を伺うように努めている。運営に関する意見等は出されていない。運営推進会議には家族全員に案内状を出し、出席できる家族に参加していただけるようにしている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム つどい たんぽぽ棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開催している。意見や提案を受け検討している。	毎月の職員会議や日常の申し送り、連絡ノートなどを通じ職員の意見・要望を把握している。法人本部への経営状況等の報告には管理者が対応している。職員の提案でトイレ内の物品スペースの見直しや、パルスオキシメーターを両ユニットへ配置し、体調変化把握の改善につながった例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、職員会議を開催し意見交換する場を設け環境改善に取り組んでいる。個人的な内容については個々に聞き取りと配慮を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の際、取得費用を支援している。現状コロナウイルス対策で行えていないが以前は定期的に外部研修への参加を促していた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員一人ひとりの出来る事、出来ない事を把握するよう心掛けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族様のご意向を確認し、不安がない関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不明点や要望など困っていることがないかご家族様ご希望に寄り添い、安心した関係作りを心掛けている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい たんぽぽ棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様のご意向を確認して必要とされるサービスを見極めることができるよう支援している。又、必要に応じて法人内他事業所や他事業所様へのご案内をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で役割を持って生活して頂けるようお手伝いをお願いしている。(洗濯物たたみ、干し、床掃除、食事の配膳、テーブル拭き、カーテンの開け閉め、おやつ作りなど)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス対策で面会が制限されているが、窓越しでの面会をが出来るように支援している。家族様にご連絡し際に、会話が出来る時は会話が出来るよう支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状コロナウイルス対策の為、外出が制限されており、馴染みの場所への外出は出来ない。以前は、誕生日に生まれ育った町へ外出が出来ていた。友人様が来所の際は、面会が出来るよう支援している。	コロナ5類移行後、家族や親類からの面会の問い合わせが増えている。家族付き添いで法要に出掛ける方や普段いつでも携帯電話で家族の写真が見れるようにしている方もいる。2か月に1回、定期的に美容師の訪問があり、新たな馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様ひとりひとりコミュニケーションがスムーズにとれるようお声掛けしている。又、孤立することがないように会話に職員が入るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、家族様にその後のご様子を伺うご連絡をしている。支援が必要な際は、相談に応じている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい たんぽぽ棟

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族様のご意向を確認し、不安がない関係作りに努めている。	半数ほどの利用者が言葉で意思表示ができ、難しい方については、表情や動作、仕草などから思いや意向を汲み取るようにしている。ケアプラン作成に当たっては、本人と家族の意向をもとに職員全員でブレインストーミングにより意見を出し合い(ひまわり棟)、取りまとめてケアプランに思いや意向を反映させている。出し合った意見やアイデアは、貼付して保管している。新たな視点、忘れかけていた取り組みに気付かされるメリットも多くある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	不明点や要望など困っていることがないかご家族様ご希望に寄り添い、安心した関係作りを心掛けている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様、ご家族様のご意向を確認して必要とされるサービスを見極めることができるよう支援している。又、必要に応じて法人内他事業所や他事業所様へのご案内をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で役割を持って生活して頂けるようお手伝いをお願いしている。(洗濯物たたみ、干し、床掃除、食事の配膳、テーブル拭き、カーテンの開け閉め、おやつ作りなど)	毎月、利用者全員を対象に担当職員が評価し支援経過をまとめたうえで、計画作成担当者が主となって介護計画を作成している。ケアプランは、3か月から6か月の期間での見直しを原則としている。家族からは、電話や面会、受診同行で来所した際に意見を伺うようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	コロナウイルス対策で面会が制限されているが、窓越しでの面会をができるように支援している。家族様にご連絡した際に、会話ができる時は会話ができるよう支援しています。			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい たんぽぽ棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状コロナウイルス対策の為、外出が制限されており、馴染みの場所への外出は出来ていない。以前は、誕生日に生まれ育った町へ外出が出来ていた。友人様が来所の際は、面会が出来るよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様ひとりひとりコミュニケーションがスムーズにとれるようお声掛けしている。又、孤立することがないように会話に職員が入るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	退所後、家族様にその後のご様子を伺うご連絡をしている。支援が必要な際は、相談に応じている。	家族が同行して入居前のかかりつけ医を受診している。認知症の専門科以外の場合は事業所の協力医療機関を受診しているほか、皮膚科医師の訪問診療を受診している方もいる。週1回、法人看護師の訪問を受け随時相談できる体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回、医療連携体制として訪問看護師が来所し、報告と相談をしている。必要に応じてアドバイスをうけ、主治医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、医療機関、家族様と連携が円滑にすすむよう心掛け、医療機関へのくらしのシートの開示している。退院時には、退院時カンファレンスへの参加、看護サマリーを活用して安心した暮らしが出来るよう支援している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム つどい たんぽぽ棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約と取り交わしの際に、重度化した場合における受け入れに対しての方針についてご説明してご理解頂けるよう努めている。重度化した場合は医療機関、ご家族様相談し、ご本人様にとって安心できる生活が出来るよう努めている。	看取りの対応については、希望される家族やかりつけ医師の判断、家族の協力を得られる等の条件が整うことを前提に、医師の指示に従って対応している。看取り対応が決まった際には、看護師による職員への研修を行っている。重度化対応指針は策定しているが、建物設備上入浴介助が困難な場合もあることを家族に丁寧に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対策として、事務所にマニュアルを提示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2階避難訓練を実施している。併設の施設とも合同で行い連携がとれるよう努めている。事前に地域の方へのお声掛けも行い参加して頂けることもある。	年2回の訓練を実施し、1回は夜間想定訓練を行っている。ハザードマップ上では浸水想定区域とされており、水害時は地域の方々から避難の声をかけてもらうこととしている。訓練の際、避難した利用者の見守りを以前お願いしたこともあり、地域との協力体制の再構築を検討していきたいとしている。非常時用食料等は、3日分程度を備蓄している。	非常時の安全確保に当たって、地域の連携協力が必要と思われます。運営推進会議の意見等も伺いながら、協力体制の再構築に向けた検討を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが生活歴やご本人様の生活の様子を観察し、自尊心を尊重したお声掛けを行うよう心掛けている。	団体生活の場であるとはいえ、一人ひとりの興味、関心に違いがあることを前提とした活動の提供に配慮している。呼称は、さん付けを徹底している。本人の意欲を尊重しお手伝い等をお願いしている。異性による介助があることを説明し了解いただいているが、入浴等の場面などで、その都度確認し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のとの会話や日々の生活の様子や言動から希望や思いを汲み取れるよう努めている。会議で話し合い希望の実現へ取り組んでいる。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい たんぽぽ棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナウイルス対策として希望に沿った外出などの支援は行えていない。起床や食事、入浴など利用者様のペースを尊重して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や必要時に、髭剃りや整髪をして頂いている。また外出際は、利用者様の気に入っている衣類などしている。2か月に一度訪問美容室で好きな髪型に散髪して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	七草粥やそうめんなど季節にあった食事を提供している。丁寧に盛り付けするよう努めている。テーブル拭きや下膳配膳を手伝って下さることもある。	ご飯、みそ汁はホーム内で調理し、副食は法人内施設で調理したものを提供している。メニューは決められたものであるため、誕生会などの行事の際は、注文を止めてホームで調達し対応するようにしている。利用者は食後の片付け、箸、お茶の配り方、手指消毒等の手伝いをお願いしている。フードプロセッサー等で食事の形態が変わる方もおり、献立を掲示し食前にメニューを説明している。おやつは職員も楽しみながら手作りのまんじゅう等を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を把握するためチェック用紙を活用している。水分や食事量が少ない時は、好きな飲み物や食べやすいゼリーやヨーグルトを提供している。毎食、栄養士が考えた食事を提供し、栄養のバランスとれるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お声掛けと口腔状態に合わせたケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	離床後、毎食後にトイレでの排泄を促している。排泄パターンを把握する為、チェック表を活用している。トイレのドアに表記をして気が付けるよう工夫している。	食事、就起床前後の声掛けや誘導、一人ひとりの排泄パターンや前日の排泄記録を把握したうえで対応している。夜間にオムツ使用している方はひまわりが1名、たんぽぽは定時誘導でオムツ使用の方はいない。在宅中に便秘だった方が、入居後にバランスの取れた食事、水分摂取、排泄の誘導、服薬に加え、温度管理された生活空間の提供により改善された方もいる。排泄を失敗した際には自尊心が損なわれないよう、さりげない声掛けに努めている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム つどい たんぽぽ棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促している。おやつにオリゴ糖を入れた飲み物やヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お声掛けの際に、体調や希望を伺いご案内している。	月曜日から土曜日の週2回、一人ひとりのスケジュールに合わせて提供している。体調等により清拭やシャワー浴に切替えるなど柔軟に提供している。職員との1対1の時間でもあり、話が弾むひと時でもある。時季によって柚子湯や入浴剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、お昼寝時間を設けている。体調に合わせて自室で過ごせるよう拝領している。季節ごとに快適に過ごして頂けるようエアコンを活用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を確認して用法用量を守り正しく服用して頂くよう支援している。症状の変化がみられる際は、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活に役割を持って生活して頂けるようお手伝いし、ご自分で出来ることはなるべくして頂くようお声掛けしている。ウッドデッキでの外気浴や近場をドライブする機会を設け、気分転換出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス対策で以前のように外出は出ない。ご本人様と家族様から希望がある際は、なるべく意向にそえるよう支援している。	新緑や花見の季節には全員でドライブしている。また、少人数、個別に個々の関心のあるスポット（公園、SL、駅など馴染みの場所）を巡る短時間のドライブは、利用者にとって特別感を味わえる時間ともなっている。家族の付き添いで自宅周辺に出掛けられる方もいる。また、通院受診後に近郊をドライブして来たりと工夫している。天気の良い日はウッドデッキでラジオ体操や日光浴で過ごすようにしている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい たんぽぽ棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所金庫にて保管と管理を行っている。コロナウイルス対策の為、買い物に行く支援は出来ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様ご本人様の希望に応じて電話連絡出来るよう支援している。手紙のやり取りの希望に応じて物品準備や郵送など支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁飾りを作成して季節感を感じれるよう努めている。全居室とりびんぐに温度計を設置し、室温管理を行い快適に過ごして頂けるよう支援している。	季節が感じられる貼り絵、塗り絵などの作品を掲げたり、手作りの日めくりカレンダーも作成し掲示している。ホールには、食事や活動、利用者の状況等に応じてレイアウトが変えられるテーブルが配置されている。利用者の中には、自分から掃除を手伝ってくれる方もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席に配置を定期的に変更して、利用者様同士が会話を楽しめるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、ご本人様が使い慣れた物や家具を持ってきて頂くようお声掛けをしている。住み慣れた居心地が継続出来るよう家族様と相談している。	居室には、ベッド、エアコン、クローゼットが設置されており、テレビやラジオ、衣装ケースや家族写真、手作りの作品を持ち込んで、好きな場所に置いたり掲げて部屋を飾っている。位牌、遺影を持ち込まれている方もおり、必要な方は入口に自分の名前を掲示している。室内の整頓や清掃は職員が中心に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースやトイレ、浴室などに表記を付け、自室がわかるよう目印つけご自分の意志で自立できるよう工夫している。		